



2025 ANNUAL REPORT

日本とアフリカを繋ぐ、共創と実行の一年

2025年、アクセルアフリカは日本とアフリカをつなぎ、構想を現場で実行へと移す共創の一年を歩みました。事業開発、フィールド調査、パートナー連携を通じて、両地域の強みを掛け合わせ、持続可能な事業の創出に取り組んできました。

本レポートを通して、その実践と成果を振り返ります。

Prepared by: AXCEL AFRICA

www.axcelafrica.com

TABLE OF CONTENTS

1. Executive Summary - 会社概要 -	03
• 代表メッセージ	
• 会社概要	
• 提供サービス紹介	
2. Feature - 特集 -	06
• 解説: TICAD9が示した「共創」の現在地	
• 活動実績: TICAD9を通じて日本企業との新たな共創の可能性を創出!	
• コラム: 不確実性の時代に前進するアフリカ-2025年が示した成長モデルの進化	
3. Achievements- 2025年の活動 -	11
• KEY FIGURES 2025: 数字で見るアクセラアフリカ	
• 事業開発 ①: アフリカで100万人のソフトウェアエンジニアを育成を目指す!	
• 事業開発 ②: フィールド調査、補助金・運営サポート	
• 事業開発 ③: その他サポート	
• 研修プログラム: 若者による社会課題解決型ビジネスの創出を目指す起業支援プログラム	
• コミュニティ事業: 日本人のケニア挑戦を応援するコミュニティハウスを運営!	
• メンバーメッセージ: 蒼かかる大陸、異なる顔を持つアフリカ市場	
• メンバーメッセージ: 多様な繋がりから育んできたアフリカ挑戦の土台	
• パートナーシップ: KAKEHASHI、TISEZA/ZIPA	
• 講演活動	
• その他の活動	
• メンバーメッセージ②: ヒトが強みであり続ける。変化の時代に進化するチーム力	
• メディア掲載	
• インターンシッププログラム	
• 執筆した記事リスト	
• アクセルアフリカメンバー紹介	



“挑戦の隣に立ち続け、最後まで共に走り抜くために、
アフリカの現場に立ち続けていく覚悟を胸に”

2025年はアクセルアフリカにとって「構想を語る一年」ではなく、「構想を現場で実行し、形にした一年」でした。日本とアフリカをつなぐ存在として、私たちは数多くの現場に立ち、企業、行政、スタートアップ、若者の皆さんと共に、試行錯誤を重ねてきました。

TICAD9をはじめとする国際的な舞台において、日本企業とアフリカの現地パートナーを具体的な共創へと導き、22件のMOU締結に関わることができたことは、大きな成果の一つです。しかし、私たちが本当に価値を置いているのは「合意の数」ではありません。現地に根差し、事業が動き、雇用が生まれ、人が育ち、次の挑戦へつながっていく——その一連のプロセスこそが、アクセルアフリカの存在意義だと考えています。

私たちは一貫して、「伴走型パートナー」であることにこだわってきました。調査で終わらせない。提案で終わらせない。現地に入り、机上の仮説を何度も検証し、現実から学び、事業を組み立て直す。その泥臭いプロセスを、企業や人と共に歩むことを選んできました。

Power Learn Projectを通じたソフトウェアエンジニア育成、大学生向けの現地研修プログラム、ナイロビのコミュニティハウス「JENGA」での日々の交流は、いずれも「未来の担い手が現場から育つ仕組み」をつくるための取り組みです。

アフリカはもはや「可能性の市場」ではなく、すでに動き続けている「現実のビジネスフィールド」です。挑戦する人にだけ、新しい景色を見せてくれる場所だと、私たちは確信しています。

来年、創業4年目を迎えるアクセルアフリカは次のフェーズへ進みます。支援者としてだけでなく、当事者として、より深く事業に関与していきます。日本企業のアフリカ事業部を“アウトソースする”存在として、より踏み込んだ実行支援を行い、農業、テクノロジー、人材といった分野では、自らもリスクを取りながら価値創出に挑戦していきます。

アクセルアフリカは、「日本とアフリカをつなぐ会社」である前に、挑戦する人と事業の“拠り所”であり続けたいと考えています。不確実性の高い時代だからこそ、現場に立ち、共に悩み、共に前へ進む。来年もアフリカの現場から、日本、そして世界へと、実行のストーリーを積み重ねてまいります。



株式会社アクセルアフリカ
代表取締役

横山 信司



アフリカ事業開発の 伴走パートナーとして 日系企業に寄り添った 活動を展開!

アクセルアフリカは、アフリカ事業開発の伴走パートナーとして、日系企業のアフリカにおける事業開発を寄り添った活動を実施します。市場分析やアドバイザリーに留まらず、共にアフリカビジネス創出にアフリカの現場で泥臭く取り組んでいます。アフリカ事業部のアウトソーシング（経営支援、モニタリング、人材派遣）も提供することで、現地に根差して事業の成功までコミットします。

VISION

AXCEL AFRICAは、日本やアフリカ諸国において、多様な連携を生み出しながら、社会課題解決型ビジネスを共に創出することを目指します。日本やアフリカ諸国の企業やヒトを繋げ、持続可能な新たな未来に向けた成長に貢献していきます。

MISSION

-  社会課題解決型ビジネスに挑戦する企業・ヒトが集うハブ機能を担います。
-  アフリカの現地と共に社会性・経済性の高い社会的インパクトを創造します。
-  伴走型パートナーとしてアフリカの現場で共に新たなビジネスを創り上げます。

COMPANY PROFILE

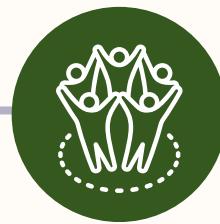
- 名称：株式会社アクセルアフリカ
- ケニア法人：Axcel Africa Consulting Ltd
- 関連法人：一般社団法人アフリカクエスト
- 設立：2022年5月25日
- 所在地：香川県高松市（ケニア共和国ナイロビ）
- WebSite：<http://www.axcelafrica.com/>



事業開発コンサル



研修プログラム



コミュニティ創出

国・地域選定からアフリカ進出における戦略策定、現地調査、法人設立、採用支援までをワンストップで提供します。現地での実行・マネジメント支援も提供しています。

日系企業や学生に対してアフリカにおける事業アイデアや新規ビジネスの検証・ブラッシュアップをハンズオン支援の実施及び研修プログラムを提供します。

アフリカで挑戦する日本人に向けてネットワークを提供し、新たなビジネスを創出できるようサポートします。またナイロビでコミュニティハウスを運営しています。

アフリカ事業開発の伴走パートナーとして

- 一般的なコンサルティング会社ではなく、日系企業のアフリカにおける事業開発を伴走する現地パートナーとして寄り添った活動を実施します。
- 市場分析やアドバイザリーに留まらず、共にアフリカビジネス創出にアフリカの現場で泥臭く取り組みます。
- アフリカ事業部のアウトソーシング（経営支援、モニタリング、人材派遣）も提供することで、現地に根差して事業の成功までコミットします。

FEATURE - TICAD 9 -

“TICAD9が示した「共創」の現在地”

アフリカとともに描く、次の成長と安定のかたち

2025年8月20日から22日にかけて、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜において、第9回アフリカ開発会議（TICAD9）が開催されました。TICADは1993年に開始され、日本政府が主導してきたアフリカ開発をテーマとする国際会議です。今回はアフリカ49か国から首脳級33名を含む要人が参加し、国際社会から大きな注目を集めました。

本会議のテーマは「革新的な課題解決の共創、アフリカと共に」です。従来の支援や援助の枠組みを超えて、官民連携を軸に、若者や女性のエンパワーメント、地域統合と連結性の強化を横断的に進めていく姿勢が、明確に打ち出されました。

横浜宣言が示す3本柱

TICAD9では「横浜宣言」が採択され、今後の日・アフリカ協力の方向性が整理されました。その骨子は、経済、社会、平和と安定の3本柱で構成されています。

経済分野では、アフリカ大陸自由貿易圏（AfCFTA）による域内統合を基盤とし、デジタル・AIの活用、食料・資源分野の強靭化、資金・制度整備を組み合わせることで、民間主導の成長を後押しする方針が示されました。

社会分野では、UHC（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ）を軸に、保健医療、教育、人材育成、防災・廃棄物対策を一体的に強化することが掲げられています。

さらに平和と安定の分野では、人間の安全保障を土台に、人道・開発・平和をつなぐHDP連携や、ガバナンス、民主主義、法の支配の重要性が再確認されました



官民ビジネス対話と二国間会談の広がり

会期中には、日本とアフリカ双方の官民によるビジネス対話が活発に行われました。持続可能な産業エコシステムの構築、域内外の連結性強化、民間セクター主導の成長に向けたファイナンス強化といったテーマで、3つのパネルディスカッションが実施されました。

また、石破総理大臣は34か国・機関、岩屋外務大臣は29か国・機関と二国間会談を行い、ケニアやタンザニアをはじめとするアフリカ諸国との関係強化が確認されました。

数字で見るTICAD9の成果

TICAD9では、協力・協業に関する署名文書が合計324件に達し、過去最大規模となりました。分野もAI・データサイエンス、人材育成、エネルギー、鉱物資源、ヘルスケア、インフラ、コンテンツなど多岐にわたっています。さらに、ジェトロ主催の「TICAD Business Expo & Conference」には、日・アフリカ双方から約1万人の関係者が参加し、194社・団体が出展しました。民間主導の動きが一層加速していることが、数字からも明らかになりました

おわりに

TICAD9は、アフリカを「支援の対象」として捉える時代から、「共に成長を創るパートナー」として向き合う時代への転換点を示しました。

横浜から発信された「共創」のメッセージが、今後どのような形で実装していくのか。TICAD9は、その出発点となる会議であったと言えるでしょう。

FEATURE - TICAD 9 -



TICAD9を通じて日本企業との新たな共創の可能性を創出！

アクセルアフリカは、2025年8月20日～22日にパシフィコ横浜で開催された第9回アフリカ開発会議（TICAD9）の併催イベント「TICAD Business Expo & Conference」内のJapan Fairに展示ブースの出展およびTICAD9各種サイドイベントにて登壇を行いました。

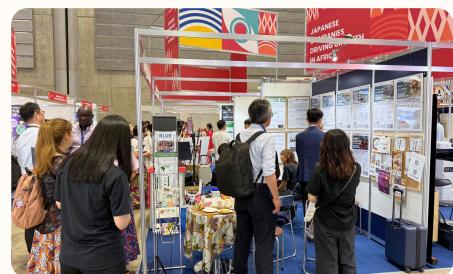
会期中は多くの来場者がブースやセミナーに参加し、アフリカのリアルな状況と日本企業との協業可能性を共有する場となり、今後の新規事業・共同プロジェクトにつながるネットワークが数多く生まれました。

① ブース展示：「拠り所」をテーマに共創空間を提供

出展ブースでは「拠り所」をテーマに掲げ、これまでアクセルアフリカが事業開発・プロジェクト運営をサポートしてきた企業・団体の活動を紹介するパネル展示を行いました。当日出展がなかった企業についても、コルクボードを活用したチラシ掲示や情報共有の場を設定し、来場者が幅広くアフリカの取り組みを知ることができる空間を提供しました。

またブースではアフリカ進出や現地協業を検討する企業向けに個別相談会も実施し、連日多くの方に訪問いただき、盛況のうちに終了しました。

さらに、ブースに訪れた来場者同士を積極的につなぎ合わせ、互いの関心や強みを共有できるようサポートすることで、新たな共創の芽を育む場としての役割も果たしました。



FEATURE - TICAD 9 -

その他、ブース内では「アフリカで挑戦する日本人」をテーマとしたトークセッションを開催。UNIDO東京事務所と東京大学が実施する「アフリカ若者社会起業プログラム（AYSEP）」の1期生リーダー・若林氏、西アフリカ・セネガルでビジネスとNPOを組み合わせた新たな社会貢献型アプローチに取り組むゲヌトーキョー代表・宮村氏を迎える、アフリカと日本の共創に関する多様な視点と実践的知見を共有しました。



今回のパネル展示及びブース内セッションを通じて、日本とアフリカの更なる共創・協業に向けた具体的なアイデアとネットワークが広がりました。

② 主催セミナー：「アフリカで挑戦する日本企業」

TICAD9会期中に「アフリカで挑戦する日本企業：現地と共に創るビジネスの可能性」と題したセミナー及びパネルディスカッションを主催しました。

パネルディスカッションの登壇企業は、武蔵精密工業株式会社、株式会社こたつ（SHIFT80）、MAGO MOTORS JAPAN株式会社、パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社で、各社が現地での挑戦や協業の可能性についてディスカッションを行い、アフリカでビジネスを展開する際に直面する課題、その克服に向けた具体的な取り組み、そして「共創」のあり方について、実際に現地で活動するからこそ得られる視点が共有されました。

当日は会場が満席となり、多くの参加者が熱心に耳を傾け、日本企業におけるアフリカビジネスへの関心の高まりが改めて示される場となりました。



③ 全体で2番目に多い22件のMOUの締結を発表！

TICAD9において、アクセルアフリカはアフリカ各国の政府機関や民間団体、スタートアップと連携し、合計22件の覚書（MOU）の締結を発表しました。これらの覚書は、日本とアフリカの間で今後進めていく具体的な協力や協業の方向性を確認するものであり、現地の課題解決と持続的なビジネス創出に向けた重要な一步となるものです。

今回のTICAD9に合わせて確認された協力・協業に関する署名文書は、全体で324件にのぼり、前回のTICAD8における92件を大きく上回る結果となりました。過去最多となるこの数字は、日本とアフリカの間で共創への関心と期待が一段と高まっていることを示しています。

そのような中で、アクセルアフリカは豊田通商株式会社に次ぐ第2位のMOU締結件数を記録しました。これは、これまで積み重ねてきた現地との信頼関係や、実践的な事業開発支援の取り組みが評価された結果であり、日本とアフリカをつなぐ共創のハブとしての役割を着実に果たしていることを示すものです。今後もアクセルアフリカは、多様なパートナーとともに、両地域にとって価値ある協業の実現に取り組んでいきます。

FEATURE - TICAD 9 -

④ TICAD9 テーマ別イベントへの登壇

UNIDO×東京大学 AYSEPピッチイベント（8月19日）

UNIDO東京事務所が主催した東京大学学生によるアフリカ向けビジネスプラン発表にて審査員を務めました。学生のビジネスモデルが次にステップに繋がるようにケニア現地の立場からコメントを行いました。



ABEイニシアティブ・TOMONI Africa関連イベント（8月21日）

これまでのABEイニシアティブにおける成果と新展開「ABEイニシアティブ4.0」「TOMONI Africa構想」について議論するイベントに登壇し、弊社からはカケハシアフリカ支部（ABEイニシアティブの同窓コミュニティ）との連携事例をご紹介しました。



テーマ別イベント「アフリカにおけるAI活用の未来」（8月22日）

特定非営利活動法人PLASが主催するイベントに登壇し、アフリカにおけるビジネス及び国際局分野におけるAI・Web3の活用の可能性について議論しました。ケニア・ナイジェリアで取り組むソフトウェアエンジニア育成プロジェクトの事例紹介やスタートアップ領域におけるAI・Web3の活用事例について共有しました。



⑤ 総括と今後の展望

今回のTICAD9を通じて、アクセルアフリカは「日本とアフリカの共創を強化するための具体的な接点」を数多く創出することができました。こうした接点をもとに、具体的なプロジェクト形成や実証、事業化へと段階的に取り組み、共創を着実に前進させていきます。

また、アクセルアフリカはこれまで一貫して、アフリカを「開発途上国」という一面的な枠組みで捉えるのではなく、「多様なビジネスポテンシャルと成長機会に満ちた地域」として日本企業を始め日本の皆様にお伝えしてきました。

今後もアクセルアフリカは、日本企業とアフリカのパートナーが対等な立場で価値を創り出す「共創」の実現に向けて、橋渡し役としての役割を果たしていきます。TICAD9で得られた成果と学びを糧に、より多くの協業機会を創出し、持続的な事業と社会的インパクトの両立に取り組んでまいります。



“不確実性の時代に前進するアフリカー2025年が示した成長モデルの進化”



この1年、私はアソシエイト・コンサルタントとして、アフリカ全土におけるビジネス動向を継続的に追ってきました。現地企業との対話、政府・開発機関の発表、各種経済指標や市場データを通じて見えてきた2025年のアフリカの姿は、決して楽観的に語れるものではない一方で、確かな変化と前進を感じさせるものでした。

2025年の終わりを迎え、浮かび上がってきた全体像は、「厳しさ」と「希望」が同時に存在する、極めて現実的なアフリカの現在地だと言えます。

複合的な逆風の中で試された市場の対応力

アフリカ市場はこの数年、金融引き締め局面の長期化、為替の不安定化、エネルギー・食料価格の上昇、さらには地政学的リスクの波及といった、複合的な圧力の下で運営されてきました。特に輸入依存度の高い国々にとっては、外部環境の変化が企業収益や家計に直接影響を及ぼす厳しい局面が続いているです。

それでもなお、多くの国や企業が状況に適応し、必要な軌道修正を行いながら、明確な意図をもって前進する力を着実に高めてきました。今年特に印象的だったのは、リスクが消えたことではなく、リスクを前提として経営や政策を設計する姿勢が、以前にも増して定着してきた点です。

2025年を象徴するキーワード「レジリエンス」

2025年のアフリカのビジネス環境を象徴するキーワードは、「レジリエンス（回復力）」でした。世界的な貿易摩擦の継続、地政学的な不確実性、気候変動に伴う干ばつや洪水といった自然リスク、政府債務の増大、そして商品価格の変動は、引き続きアフリカ市場を予測困難なものにしています。企業は突発的なコスト上昇や需要変動に直面し、政府も限られた財政余力の中で難しい判断を迫られました。しかし、こうした逆風の中でも、企業が事業モデルを柔軟に調整し、政府が政策対応を洗練させ、市場が大きな混乱を起こすことなくショックを吸収した年だったと言えます。

数字が示す回復力、GDP成長とマクロ経済の安定

経済パフォーマンスは、このレジリエンスを数値として裏付けています。アフリカ開発銀行によると、2025年のアフリカ全体のGDP成長率は約4.2%に達し、世界平均を上回る水準となりました。これは単なる反動的な回復ではなく、マクロ経済の安定化と構造改革の成果が徐々に表れ始めていることを示しています。20カ国以上が5%を超える成長を記録し、エチオピア、ルワンダ、セネガル、ニジェールなどでは6~7%前後の成長率が見られました。これらの国々では、インフラ投資、農業の生産性向上、製造業やサービス業の育成といった分野が成長を支えており、持続的な貧困削減につながる経済成長の条件が徐々に整いつつあります。

“不確実性の時代に前進するアフリカー2025年が示した成長モデルの進化”

AfCFTAの前進がもたらす域内市場の現実化

特に注目すべき進展として、アフリカ大陸自由貿易圏（AfCFTA）の実質的な成熟が挙げられます。2025年には、関税削減や原産地規則の運用が徐々に進み、域内貿易は全体の約20～25%を占める水準に拡大したと推計されています。これは、数年前の水準と比べても明確な前進です。製造業、農業ビジネス、物流、サービス分野において、地域内で完結するバリューチェーンが形成され始めており、外部市場への依存度を抑えながら成長する道筋が現実味を帯びてきました。

AfCFTAはもはや理念や政策文書の中だけの存在ではなく、企業の意思決定に影響を与える実務レベルの枠組みへと移行しつつあります。

再生エネとデジタル化が切り拓く新たな成長軸

再生可能エネルギーとデジタル分野の進展も、2025年を特徴づける重要な要素です。太陽光や風力、地熱エネルギーへの投資は着実に拡大し、電力アクセスの改善と民間資本の呼び込みが進んでいます。特に東アフリカでは地熱発電がエネルギーの安定供給が産業活動を下支えしています。

同時に、デジタル経済の成長も顕著です。モバイルマネーの利用者数はアフリカ全体で7億人規模に達し、フィンテック、Eコマース、クラウドコンピューティング、さらには生成AIの初期導入が、企業の業務効率や消費者体験を大きく変えています。これらは、アフリカの若く、教育水準と技能を高めつつある人口が、すでに現在の経済を動かす中核的な存在になっていることを示しています。

外部依存から内発的成长へ、成長モデルの転換点

私自身の視点から見ると、2025年はアフリカの成長の生み出し方そのものが転換点を迎えた年でした。これまでのよう外部資金や援助に大きく依存するモデルから、税収基盤の強化、国内資本市場の育成、生産性向上を通じて、成長を内側から支える方向へのシフトがより明確になっています。物流の効率化、電力供給の安定化、デジタル化による行政・企業の効率改善といった取り組みだけでも、中長期的には1兆ドルを超える経済価値が創出される可能性が指摘されています。これは、アフリカがより自律的で持続可能な成長モデルを構築しつつあることを意味します。



「潜在力」から「実証」へ移行するビジネス環境

2025年から得られる最も重要な教訓は、アフリカのビジネス環境がもはや「将来の潜在力」だけで語られる段階を超えたつあるという点です。今や、成長や改革はデータと実績によって裏付けられ、「実証」によって評価されるフェーズに入りつつあります。

2026年に向けてアフリカ市場に関わる企業や投資家、パートナーには、この変化を正しく理解する姿勢が求められます。成功の鍵となるのは、短期的な成果を急がず、現地の文脈を深く理解し、長期的に機能する制度やパートナーシップを築くことです。

意図的に選び取ってきた前進

アフリカの物語は、あらかじめ決められた運命の結果ではありません。厳しい状況の中で下してきた数々の選択によって形づくられ、そして自らの経済の進むべき方向に対する自信を深めながら、意図的かつ着実に前進してきた歴史なのです。



アソシエイトコンサルタント
ローレンス

AXCEL AFRICA ACHIEVEMENTS



KEY FIGURES 2025

20

日系企業サポート数

約20の企業・機関と事業開発に係るプロジェクトをご一緒にさせていただきました。フィールド調査から現地オペレーション支援まで幅広く現場でサポートさせていただきました。

49

研修プログラム受入人数

東京大学、慶應義塾大学、法政大学の3つの大学向けに社会課題解決型のビジネス開発を学ぶ研修プログラムを実施し、のべ49名の方にケニア・タンザニアにお越しいただきました。

22

パートナーシップ締結数

22のアフリカ各国の企業・機関とMOUを締結し、TICAD9でも発表しました。アフリカ全土でのパートナーシップを拡大し、アフリカとの共創エコシステムの創出を目指します。





アフリカで100万人のソフトウェアエンジニアを育成を目指す!

POWER LEARN PROJECT (PLP) は、アフリカの若者に対してIT・プログラミング教育を提供する社会的組織であり、16週間の集中講座「#1MillionDevs4Africa」などを通じて、ソフトウェア開発やスタートアップ構築スキルを伝えています。私たちはPLPの創設当初から継続的に事業推進を支援しており、経営マネジメント支援や日系企業との連携をサポートしています。私たちは今後もPLPを通じて、より多くのアフリカの若者たちに「学びの機会」と「挑戦の場」の創出に貢献していきます。またご賛同いただける日本企業の皆さまとの新たなパートナーシップを積極的に募集しております。IT機器の寄贈、教育支援、プログラム開発などご関心のある方はぜひお気軽にお問い合わせください。

① 2025年は約9,000人の卒業生を輩出!

2025年、PLPはアフリカ全土から9,000人のプログラム卒業生を輩出し、12月に卒業式を行いました。

また今年はAI・ブロックチェーンに特化したカリキュラムコースを提供したり、ケニア最大の通信会社であるSafaricomとの共同コホートを実施したりと新たな取り組みに挑戦し、成功を収めました。



② 日系企業から中古パソコンを寄付!

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社およびNPO法人Class for Everyoneと協働し、再利用可能なパソコン7台を寄贈しました。寄贈されたパソコンは、PLPの教育カリキュラムでの活用が想定されており、今後は一部を難民キャンプへの設置も検討しています。多くの若者にとって、パソコンを使った学習機会は将来の選択肢を広げる貴重な機会であり、本寄贈が“教室の扉”を開くきっかけとなることが期待されます。



BUSINESS DEVELOPMENT -2-

フィールド調査



アクセルアフリカでは、日系企業がアフリカに進出の可能性を考える際に活用できる市場調査を実施しています。2025年は、有機農業産業の市場概況調査や、お茶市場の流通構造・価格帯・主要プレイヤーに関する調査を実施してきました。その他にも、スーパーマーケットを中心とした小売現場における価格調査（SKU別価格、容量・パッケージ形態、原産国、プライベートブランドの有無等）を通じて、実際の消費者価格水準や競争環境を提供しました。これらの調査では、統計データや二次情報に依存するのではなく、現地小売店・流通事業者・生産者・関連団体へのヒアリングを組み合わせ、事業化を前提とした一次情報の収集を重視しています。

アクセルアフリカとしても農業ビジネス参入！？

市場調査を通じて、ケニアにおける農業分野のポテンシャルの高さを実感しています。現在、アクセルアフリカは自社としても現地農業ビジネスに参画できないか、自社調査を進めています。地方農家と連携して、農産物栽培の支援や加工商品の企画・販売などを検討しています。農地での実証実験やリアルな現地ビジネスの組み立て方など日系企業のアフリカ進出の際の仮説検証にも役立ててもらえる様に、今後取り組みを進めていきます。



補助金取得・運営サポート



アクセルアフリカは、日本企業によるアフリカ市場進出において日本の公的補助金・支援制度を活用した伴走支援を行っています。

2025年も様々な補助金の運用のサポートをさせていただきました。補助金要件を踏まえた事業計画・提案書の作成支援、実施体制の整理、成果整理および精算・報告対応の実務支援を実施してきました。また市場調査、現地パートナー候補の探索・選定、ユーザー・行政・関連機関へのヒアリング調査などをサポートしました。支援した分野はヘルスケア、クリーンテック、農業など多岐に渡りました。

幅広い補助金の申請・運営を支援！

- グローバルサウス未来志向型共創等事業費補助金
- アフリカ市場活力取り込み事業実施可能性調査事業（AfDX）
- JICA 中小企業・SDGsビジネス支援事業
- J-Partnership
- ヘルスケア産業国際展開推進事業

etc.



BUSINESS DEVELOPMENT -3-

その他サポート

アクセルアフリカでは、事業開発コンサルティングや現地フィールド調査、各種補助金・公的支援制度の申請および運営支援に加え、アフリカにおける事業展開をワンストップで支援しています。市場参入戦略の策定、現地ニーズを踏まえたビジネスモデル設計、信頼できる現地パートナーや企業の探索・マッチング、実証事業（PoC）の企画・運営、行政・関連機関との調整までを一気通貫でサポートする点が特長です。さらに、現地法人設立支援やローカル人材の活用、事業拡大フェーズにおける運営体制構築までを含め、日本企業がアフリカ市場で持続的に事業を成長させるための実践的かつ伴走型の支援を提供させていただいている。

現地法人設立支援

ケニア現地法人の設立のサポートを行いました。具体的には会社構造の相談から現地法人設立、税務登録、ビザの取得、銀行口座開設まで、すぐに現地でビジネスを展開できる状況を整えさせていただきました。ケニアでは想定以上の書類を求められたり、途中で手続きが停滞したりと様々なことが起こりますが、現場ですぐに対応することで、スムーズに対応が完了するようにサポートしました。



ビジネス出張サポート



日系企業が現地に出張する際にアポの取得から車の手配まで包括的にサポートしています。2025年は現地の教育機関やバラ農園への訪問同行など、幅広い分野の現地視察をサポートしました。具体的にMOUの締結の話に進んだり、将来のビジネスの可能性を模索したりと短い出張期間を効率的に活用するためにお手伝いさせていただきました。次の展開を私たちとしても楽しみにしています。

事業開発コンサル 提供サービス一覧

アフリカにおける事業開発の各フェーズで必要なサービスを柔軟に提供しています。

実施項目	Phase 1 市場調査・進出検討	Phase 2 事業の実証	Phase 3 進出準備・拠点設立	Phase 4 事業運営・拡大
	提供サービス	提供サービス	提供サービス	提供サービス
	<ul style="list-style-type: none">アフリカ進出国選定戦略策定マーケット調査現地視察	<ul style="list-style-type: none">戦略案に対するF/S調査ユーザーのニーズ確認調査試験販売/ビジネス実証実験パートナー企業選定進出形態の選定	<ul style="list-style-type: none">現地法人設立手続き人事・採用許認可申請オフィス環境整備	<ul style="list-style-type: none">オペレーション体制の確立販路拡大プロモーションの実施他国展開案の策定

TRAINING PROGRAM



若者による社会課題解決型ビジネスの創出を目指す起業支援プログラム

「UNIDO × UTokyo Africa Youth Social Entrepreneurship Programme (AYSEP)」は、UNIDO東京事務所と東京大学が連携して実施する、若者によるアフリカの社会課題解決型ビジネスの創出を目指す起業支援プログラムです。2024年10月に開始され、渡航前の事前研修、2025年のケニア現地研修、帰国後のフォローアップで構成されています。

アクセラアフリカは、本研修プログラムにおいて、事前研修から現地研修、帰国後の支援まで一貫して伴走しました。学生がアフリカの社会課題を理解し、実践的なビジネスプラン構築へとつなげられるよう、一人ひとりと向き合う伴走支援を実施しました。

① 事前研修

アフリカビジネスの基礎情報やケニアのスタートアップ事例を紹介する導入講義に加え、PESTEL分析、リーンキャンバスを用いた事業計画、出発前ブリーフィングを実施しました。現地での仮説検証に必要な基礎力を養成しました。

② 現地研修（ケニア・2025年3月）

参加した東京大学の学生10名は、関心分野に基づく企業訪問やフィールド視察を行い、現地企業や顧客になりうる層へのヒアリングを通じて課題を把握しました。弊社は、企業訪問の調整、現地ステークホルダーとのセッションアレンジ、大学インキュベーションセンターでのピッチ実施支援、研修中の事業プラッシュアップを実施しました。

③ 帰国後のメンタリング

現地で得た一次情報をもとにした仮説検証を継続できるよう、ビジネスモデルのブラッシュアップ支援や個別メンタリングを実施しました。



COMMUNITY ACTIVITY



日本人のケニア挑戦を応援するコミュニティハウスを運営!

アクセラアフリカは、ケニアの首都ナイロビにあるコミュニティハウス「JENGA（ジェンガ）」の運営をしております。JENGAは日本人のアフリカ・ケニアにおける挑戦を応援する拠点を目指しています。アフリカで挑戦したいと考えていても、現地の情報は限られており、信頼できる人や情報にアクセスすることは容易ではありません。JENGAはこうした課題に対し、ヒトと情報が集まり、アフリカでの挑戦や共創が生まれる空間をつくることを目的としています。

日本の公民館のように、起業家、現地在住者、旅行者、ビジネス関係者など多様な人々が集い、交流や情報共有を行なながら互いに切磋琢磨できる空間を提供しています。宿泊・コワーキング・イベントを通じて、初めてケニアを訪れる方から長期滞在者まで様々な方が利用できる環境を整えています。

①宿泊施設



日本人スタッフが運営する宿泊施設として、手頃な価格で安心して滞在できる環境を提供しています。またナイロビの中でも比較的治安の良いエリアに位置しており、初めての方でも安心してご利用いただけます。2025年は総勢約200名の方にご利用いただきました。

②コワーキングスペース

安定したWi-Fi環境をはじめ、モニターやテレビなどの設備を備え、仕事に集中できるコワーキングスペースを提供しています。ナイロビの中でも比較的安定した通信環境のもと、業務に不自由なく作業が可能です。また、現地ケニア人や他の利用者と同じ空間で作業することで、刺激を受けながら互いに切磋琢磨できる環境を整えています。

③ミートアップ・イベント

起業家・駐在員、学生や出張者・旅行者など立場や職業を問わず気軽に交流できるミートアップを開催しています。今年は日本人に加え、日本に関心を持つケニア人の方にも多く参加いただきました。また現地で商品販売をしている方々とのイベントコラボもさせていただきました。



MEMBER MESSAGE -1-

“惹かれる大陸、異なる顔を持つアフリカ市場”

2025年は、大阪・関西万博やTICAD9の開催をはじめ、例年にも増して日本とアフリカ諸国との交流が活発化した一年でした。それに伴い、アフリカ関連のイベントや取り組みも数多く開催され、私自身もさまざまな機会に参加させていただきました。

その中で特に印象に残ったのは、「アフリカが純粋に好きな人」の多さです。ビジネスをきっかけにアフリカを訪れ、そこから魅了されていった方、もともとアフリカへの関心や愛着があり、それがビジネスへとつながった方一出発点はさまざまですが、アフリカ大陸には人を惹きつけてやまない独特の魅力があるのだと、改めて実感しました。

私自身も今年、複数のアフリカ諸国を訪れましたが、いずれの国にもそれぞれの個性と可能性があり、名残惜しさを感じながら現地を後にしました。ビジネスの観点においても、国や地域ごとに異なる課題と機会が存在し、多様なビジネスチャンスを秘めた大陸であることを強く感じています。

2026年は、こうした各国・各地域の特性にさらに焦点を当て、日本企業の皆さんにとって注目すべき分野や進出の可能性を、より具体的にご紹介していくければと考えております。ぜひご期待ください。

本年も多くの方々と出会い、ご縁をいただきましたことに、心より御礼申し上げます。皆さんにとって良い年末年始となりますようお祈りするとともに、2026年も引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



事業共創コンサルタント
八田 樹枝瑠

“多様な繋がりから育んできたアフリカ挑戦の土台”

2025年は、初めて現地に足を運び、ケニア市場への挑戦を検討する多くの方々と、研修プログラムやJENGA HOUSEを通じて出会う一年となりました。ケニアを単なる旅行先や一時的な滞在先ではなく、本格的に事業として向き合うべき市場として捉え、具体的な事業検討を進める動きも見られ、私たちもこうした皆さんと共にケニア市場への挑戦を重ねてきました。

この一年を振り返り改めて感じるのは、アクセルアフリカが現地で果たす役割は、“完成された答えを提示することにとどまらず、アフリカで挑戦する前段階の土台づくりから伴走すること”にあるということです。カケハシアフリカやJENGA HOUSEを軸に、アフリカに挑戦する日系企業、起業家、アフリカ現地パートナーが交わるコミュニティの形成にも継続的に取り組んできました。

こうした多様な関係者との継続的な繋がりは、事業を前に進めるうえで欠かせない信頼の基盤となるものです。また、これらの関係性はネットワークにとどまらず、新たなアイデアや事業検討が生まれる場として機能し、具体的な共創や事業の取り組みへと繋がりつつあります。現場のメンバー一人ひとりも、こうしたコミュニティの中で多くの方々と関わりを重ね、日本とアフリカの双方に根差した関係性を深めることができました。

今後も、こうした繋がりを大切にしながら、日本企業とアフリカ現地をつなぐ役割を果たし、皆さまの挑戦を支えてまいります。



エグゼクティブアシスタント
高塚 こころ

最後になりますが、2025年はTICAD9をはじめとするさまざまな機会を通じて、多くのご縁に恵まれた一年となりました。日頃より支えてくださっている皆さんに心より感謝申し上げるとともに、2026年も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

PARTNERSHIP - KAKEHASHI -



ABE同窓ネットワーク「KAKEHASHI AFRICA」とのパートナーシップ

カケハシアフリカは、日本の大学院で学んだアフリカ出身のABEイニシアティブ卒業生たちが設立した同窓ネットワークで、アフリカ全土に支部を展開しています。アクセルアフリカではJICAとも協力して、カケハシアフリカの支部との連携を加速しており、2025年4月時点では、以下17カ国のカケハシアフリカ支部と正式にパートナーシップを締結しています。現在、「アフリカ情報発信」「イベント連携」「現地支援」の3つを中心とした取り組みを共同で展開しています。アクセルアフリカの拠点はケニアのみですが、カケハシアフリカ支部と連携することで、アフリカ全土での事業開発をご支援できる体制を構築しています。現在も複数の支部と継続的に協議しており、今後よりパートナーシップを拡大します。

アフリカ各国の最新情報を一元化、日本向けに発信

アフリカ諸国のビジネス環境をより具体的に理解するための情報インフラとして、「国別プロフィール」の公開を2025年4月より開始しています。現在、14カ国の情報をホームページに公開しています。今後も順次、対象国を追加していく予定です。

コラボイベントも開催!

8月のTICADではカケハシマダガスカルと共同でブース出展を行い、日本とマダガスカルの連携促進に向けたプロモーションを実施しました。加えて、同時期に日本で開催された、カケハシマダガスカルによる日・マダガスカル商工会の発足記念イベントにも参加し、両国間の新たな連携の機会を祝しました。

10月には、ガーナのABEイニシアティブ卒業生ネットワーキングイベントに参加し、弊社とKAKEHASHIの取り組みを紹介するとともに、今後のガーナとの協力関係を確認しました。また、11月のエチオピア渡航時には、現地KAKEHASHI支部長と面会し、エチオピアのビジネス可能性について意見交換を行いました。



PARTNERSHIP - TISEZA / ZIPA -



継続的な連携とタンザニアでの事業機会の拡大へ

日本企業のタンザニアおよびザンジバルへの進出・投資促進を目的として、タンザニア投資・特別経済区庁（The Tanzania Investment and Special Economic Zones Authority: TISEZA）およびザンジバル投資促進庁（Zanzibar Investment Promotion Authority: ZIPA）とそれぞれ覚書（MOU）を締結しました。本締結は、大阪・関西万博の「タンザニアナショナルデー」に合わせて来日した、マジャリワ・カシム・マジャリワ首相のもとで開催された「タンザニアビジネス投資観光フォーラム」内の式典にて行われました。MOU締結により、アクセラアフリカはTICおよびZIPAとそれぞれ連携し、投資・ビジネス環境に関する最新情報の提供、現地パートナーとのマッチング、進出・投資手続きの支援を一層強化していきます。

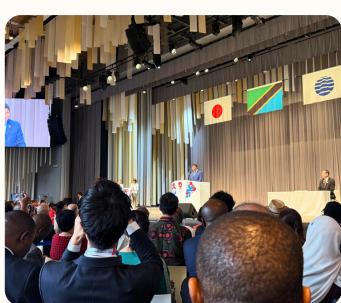
投資を支えるTISEZA・ZIPAの役割

タンザニア投資・特別経済区庁（TISEZA）は、タンザニア本土への投資を一元的に支援する政府機関であり、投資家のためのワンストップサービスを提供しています。投資プロジェクトの登録から各種ライセンス取得、税制優遇制度の案内、関係省庁との調整支援、操業後のフォローアップまで、投資家が円滑に事業を進められるよう包括的にサポートしています。

ザンジバル投資促進庁（ZIPA）も同様に、ザンジバルへの投資を促進する専門機関として、外国企業に対する許認可取得のサポート、インセンティブ情報の提供、現地行政との調整役を担い、投資家の活動を支えています。

タンザニア・ザンジバルの投資機会をさらに広く

今回のMoU締結を機に、日本企業のタンザニアおよびザンジバル市場への円滑な進出を支援し、地域経済の発展と持続可能なビジネス環境の構築に貢献していきます。



PUBLIC SPEAKING

アクセルアフリカでは2025年も様々な方々からお声がけいただき、アフリカビジネスの現場をお届けする講演活動を行ってきました。テーマは、“アフリカビジネスの最新トレンド”から“日系企業と現地企業の共創事例”、“ソーシャルビジネスの考え方”、“ケニアにおける製造業の現状”まで幅広く扱いました。

アクセルアフリカでは、アフリカの現地情報を届ける機会を今後も積極的に創っていきたいと考えています。ぜひお気軽に講演・勉強会などのご相談いただけすると幸いです。

インド日本商工会 輸出委員会：アフリカビジネス最新状況～小売概況を中心に～

インド日本商工会（JCCI）の輸出委員会の会員の方を対象に、現地の動向や産業の概況をご紹介し、アフリカを単なる新興市場として捉えるのではなく、実際の産業構造や消費動向を踏まえた実践的なビジネス検討の視点を提供しました。インドを生産拠点とし、アフリカ市場への展開を検討する企業にとって、今後の事業戦略立案に資する知見を提供する機会となりました。



横浜市国際局：アフリカビジネスセミナー：環境配慮型ビジネスの新潮流



本セミナーはTICAD9の開催を契機に、日本企業によるアフリカでの環境・社会課題解決型ビジネスを後押しする目的で企画されました。代表の横山が登壇し、「アフリカにおけるビジネス最新状況」と題したプレゼンテーションの実施及び「アフリカでの環境配慮型ビジネスのインパクトと実装の鍵」がテーマのパネルディスカッションに参加しました。

01 Booster: アフリカでのオープンイノベーション事例を徹底解説！ローカル企業連携のリアルとTICAD活用術

代表の横山が登壇し、アフリカのビジネス市場の最新トレンド解説、日本企業と現地企業のオープンイノベーション事例紹介、さらにはTICAD9をビジネスチャンスに変える具体的な活用方法などをご紹介しました。当日は、グローバルサウスでの新規事業開発、海外スタートアップとの共創にご関心のある多くの企業の皆様にご参加いただきました。



都留文科大学：社会起業論「アフリカにおける社会課題解決型ビジネスの共創」



代表の横山が講師として講義を実施しました。本講義では、横山自身の青年海外協力隊、開発コンサルタント、アフリカ現地での事業開発および投資・コミュニティ運営の経験をもとに、アフリカにおける社会課題とビジネスの関係性を体系的に解説しました。理論紹介にとどまらず、現地で実際に取り組んできた事例を通じて、社会性と経済性を両立させるビジネスの構造を具体的に示しました。

JACCI：「アフリカウェブセミナーシリーズ」

2025年11月26日に開催されたJACCI第2回アフリカウェブセミナーにおいて、代表の横山がモレーター兼プレゼンターとして登壇し、支援先であるMAGO MOTORS JAPAN株式会社を招き、アフリカ進出の実例や伴走型支援の重要性について議論しました。本セミナーを通じて、日本企業のアフリカ進出を支える実践的な知見が共有されました。



PUBLIC SPEAKING

Sport for Tomorrow × Africa Action Day 2025

TICAD9 公式サイドイベント「Sport for Tomorrow × Africa Action Day 2025」において、横山および高塚がモダレーターとして登壇しました。本イベントでは、「ビジネス」「国際協力」「ユース」「スポーツ」をテーマに、アフリカに関わる実践者を迎えた複数のトークセッションが行われました。

横山・高塚は、アフリカビジネス、国際協力、ユース分野のセッションで進行を担当し、TICAD7以降6年間でのアフリカを取り巻く環境変化、現地で事業や活動を継続する中で直面した課題、理想と現実のギャップ、今後の共創の可能性について、登壇者のリアルな経験を引き出しました。

本イベントを通じて、アフリカとの関わり方を多角的に捉え直すとともに、次世代を含む参加者に対し、これからアフリカとの関係構築やキャリアのヒントを提供する機会となりました。



How to connect with Japanese Companies (マダガスカル)



2025年2月、カケハシマダガスカルが主催したビジネスイベントにおいて、アクセルアフリカは「日本のビジネスの特徴と日本企業とのパートナーシップ構築」をテーマに登壇しました。公園では、日本におけるビジネス商習慣や共創の可能性を紹介しました。

当日は、マダガスカルの現地企業から日本との連携に対する高い関心が示されました。

ABE Alumni Networking Session (ガーナ)

2025年10月には、ガーナのABEイニシアティブ卒業生およびJICAガーナ事務所により開催されたネットワーキングイベントに八田が参加し、アクセルアフリカおよび弊社とKAKEHASHIの取り組みを紹介しました。併せて、今後のガーナにおける同窓コミュニティとの協力関係について確認し、連携に向けた意見交換を行いました。



Africa Weekends 2025 by ア福リカ



アフリカに関わる多様なゲストが集い、「アフリカとの関わり方」を深める2日間のオンラインイベント「AFRICAN WEEKENDS」に高塚が登壇しました。イベント内では、新卒でケニア就職を決断した背景や幼少期からの夢、迷いながらもアフリカで生きる道を選んだ経験など実体験をもとに新卒でアフリカを進路の一つとして選ぶという選択についてお話ししました。

Kenyans in Japan Association (KIJA)

在日ケニア人協会 (KIJA) 主催する日本在住のケニア人学生向けオンライン就職フェアに高塚とミリアムが登壇しました。

大学のキャリア支援、在日ケニア人コミュニティの活用、インターンやアルバイトを通じた経験と人脈づくりの重要性、日本の職場文化や報・連・相などの理解についてお話ししました。



OTHER ACTIVITIES

YouTubeチャンネル始動!

アクセルアフリカは2025年12月にYouTubeチャンネル「アフリカビジネス最前線」を開設しました。第1弾の動画は、「アフリカのビジネスポテンシャル」がテーマです。なぜ今、アフリカが「ラストフロンティア」として世界から注目を集めているのか? アクセルアフリカ代表の横山が、その理由と魅力、そして地域ごとの特徴などアフリカの基礎知識を徹底解説します!

今後も不定期にはなりますが、動画を順次公開していく予定です。ぜひチャンネル登録してお待ちいただければ嬉しいです。



<https://www.youtube.com/@axcelafrica>

AfriNovation Festival 2025 にブース出展!

2025年10月にナイロビのA.S.Kドームで開催された「AfriNovation Festival 2025」に初出展しました。本出展は、アフリカのイノベーション分野における当社ブランドの認知度を高めるうえで、大きなマイルストーンとなりました。

本イベントでは、展示ブースを設営し、イベントへの参加およびブランド紹介を行うとともに、パートナー企業との積極的なエンゲージメントを実施しました。あわせて、日本製品の展示を通じて日本の技術や強みを発信し、現地イノベーションエコシステムの調査および幅広いネットワーキングを行いました。



その結果、30社以上の潜在的なパートナーと接点を構築し、日本とアフリカのイノベーションをつなぐ「コネクター」としてのAxcel Africaのブランド認知を大きく向上させることができました。

JACCI事務局への参画!

2025年7月、アクセルアフリカは、経済産業省が推進する「日本アフリカ産業共創イニシアティブ（JACCI）」において、JACCI事務局メンバーとして採択されました。JACCIは、日本企業のアフリカ進出を加速することを目的に、アフリカのスタートアップや既存企業を束ね、産業全体のバリューチェーンを共創型で高度化する取り組みです。同月には都内でキックオフミーティングが開催され、事務局メンバーによる顔合わせや、今後の重点テーマに関する意見交換が行われました。



アクセルアフリカは、本イニシアティブにおいて、現地代理店ネットワークの可視化・組織化および日本製品の現地販売支援を主軸に活動し、日本企業の円滑なアフリカ市場参入に貢献してまいります。

MEMBER MESSAGE -2-

“ヒトが強みであり続ける。変化の時代に進化するチーム力”

2025年を振り返って、アクセルアフリカの最大の強みの一つは、今も変わらず「ヒト」であると感じています。HRマネージャーの視点から振り返ると、この1年は、私たちが遂行したプロジェクトや関わった市場だけでなく、変化の激しいビジネス環境の中で、チームが一貫して示してきた適応力、協働力、そして共通の目的意識によって特徴づけられる年でした。

多様性の交差点で発揮されたチームの対応力と信頼

2025年を通じて、アクセルアフリカは、特にアフリカと日本を軸に、多様な文化、産業、地域が交差する領域で事業を展開してきました。そこでは専門的な技術力だけでなく、高い対人能力やコミュニケーション力、文化的な感受性、そして組織としての成功に対する強いコミットメントが求められました。私たちのチームはこの挑戦に応え、コンサルティング、オペレーション、リサーチ、クライアント対応といった各機能間の連携を強化し、組織全体の信頼関係をさらに深めてきました。



成果とウェルビーイングを両立する組織文化の構築

2025年における重要な取り組みの一つは、成果とウェルビーイングの両立を重視した「人を中心とした職場文化」の構築でした。業務量が増加し、プロジェクトがより複雑化する中で、私たちは意識的に、明確なコミュニケーション、役割の明確化、そして継続的なフィードバックを重視してきました。定期的なチェックインやチームでの振り返り、スキル共有の場を設けることで、方向性の一致を図ると同時に、学びと成長の余地を確保してきました。これらの取り組みは、責任感を高めるとともに、アクセルアフリカらしい協働的な文化を維持することにつながりました。

人材育成と越境経験がもたらした組織の進化

人材育成も、今年の重要な柱の一つでした。チームメンバーのスキル向上に投資するとともに、国境を越えたプロジェクトへの参画機会を積極的に提供してきました。これにより、専門性や実務能力が高まっただけでなく、各メンバーの自信や主体性も育まれました。その結果、クライアントのニーズに柔軟に対応しつつ、高い内部基準を維持できる、より機動力のある組織へと進化しています。

困難な環境下で際立ったチームのレジリエンス

2025年を振り返って最も強く印象に残るのは、チームのレジリエンス（回復力）です。内部的な課題、厳しいスケジュール、変化するクライアントの期待、そして異なる文化をまたいで事業を行う複雑さの中にも関わらず、私たちのメンバーは一貫して高いコミットメントとプロフェッショナリズムを発揮してきました。このレジリエンスは偶然の産物ではなく、代表の横山の意図的なリーダーシップ、相互の尊重、そしてアフリカと日本の間に意味あるパートナーシップを築くというアクセルアフリカの使命に対する共通の信念によって育まれてきたものです。

ヒトを軸にした持続的な競争力へ

2026年に向けて、アクセルアフリカの競争優位性は今後も「ヒト」にあります。人材を育成し、協働を強化し、価値観を大切にし続けることで、私たちは事業成長を支えるだけでなく、今日そして将来にわたってクライアントから信頼されるチームを築いていきます。



HRマネージャー
ミリアム・レイ

MEDIA ACTIVITIES

JETRO ビジネス短信

TICAD9併催ビジネスイベントで、アフリカで挑戦する日本企業が取り組み紹介
(2025年9月4日)



ビジネス短信

ビジネス短信のコンテンツ一覧

TICAD9併催ビジネスイベントで、アフリカで挑戦する日本企業が取り組み紹介
(アフリカ、日本、ケニア、ナイジェリア、エチオピア、ガーナ、ルワンダ、ポツワナ、コートジボワール)

2025年09月04日

調査部中東アフリカ課

第9回アフリカ開発会議（TICAD9）の併催事業として、ジェトロは8月20～22日に横浜市で、「TICAD Business Expo & Conference (TBEC)」（2025年8月27日記事参照）を開催した。

TBECでは21日、アフリカに進出を果たしたスタートアップを含めた日本企業によるパネルディスカッション「アフリカで挑戦する日本企業: 現地と共に創るビジネスの可能性」が開催された。

このステージイベントの主催者で、日本企業のアフリカでの事業開拓をサポートするコンサルティング企業アセスルアフリカは、アフリカに進出する日本企業が急成長し、エチオピアでは製造業と農業分野が拡大しているほか、ガーナでは天然資源とインフラの投資が高めだといい、ルワンダ、ポツワナは経済とイノベーションを原動力に成長しており、コートジボワールは西アフリカのブランド圏の中で最も勢いがあると紹介した。

画像引用元: [TICAD9併催ビジネスイベントで、アフリカで挑戦する日本企業が取り組み紹介](#)

日本経済新聞

日本飛び出すZ世代起業家
巨大市場アフリカに挑む
(2025年8月22日)

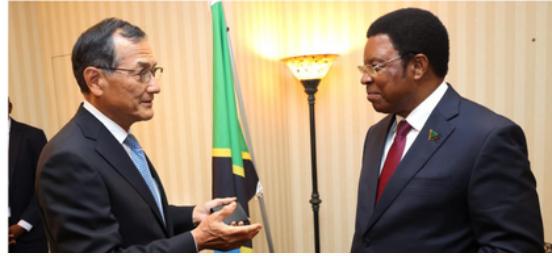


画像引用元: [日本飛び出すZ世代起業家 巨大市場アフリカに挑む \(NIKKEI FILM\)](#)

THE BIZLENS

Tanzania showcases tourism, investment potential at Osaka Expo
(2025年5月26日)

The minister for Natural Resources and Tourism, Dr Pindi Chana, has led the call to Japanese investors, urging them to seize the vast opportunities in Tanzania's tourism sector



画像引用元: [Tanzania showcases tourism, investment potential at Osaka Expo](#)

JETRO ビジネス短信

経済産業省、TICAD9の成果と取り組みを発表、協力署名文書は計324件
(2025年8月25日)



ビジネス短信

ビジネス短信のコンテンツ一覧

TICAD9に関する署名儀式 (ジェトロ撮影)

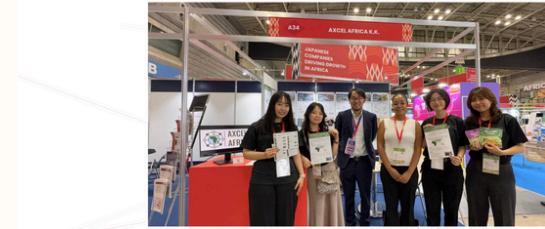
各社・団体の実数をみると、東田道康はアフリカ諸国の政府や企業、国連機関などと、前回TICAD8の2倍を上回る44件の覚書(MOU)などを締結したと発表⁹した。2022年設立のアフリカ派出コンサルティング企業「アケセルアフリカ¹⁰」は人材育成プログラム「ABEイニシアチブ¹¹」の卒業生などのネットワーク「KAKEHASHI」の各国支部との協力など22件を登録した。JTのグループ企業JT(関連基金を含む)は16件の協力を登録した。そのほか

画像引用元: [経済産業省、TICAD9の成果と取り組みを発表、協力署名文書は計324件](#)

KICK BRAIN

TICAD9
～ビジネス交流が加速しているアフリカ
(2025年9月)

KiCKBRAiN また、日本企業のアフリカ進出に関して、ケニアを拠点にサポートしている株式会社アケセルアフリカ¹²という企業がある。CEOの横山裕司氏は、2013年～2015年にJICA海外協力隊としてケニアで活動し、帰国後は日本の開発コンサルタントを経て、2022年5月に同社を起業したという経歴の持ち主だ。現在はJICA海外協力隊の派遣国であったケニアに移住し、ケニアを拠点にアフリカ各国でビジネスを行っている。



画像引用元: [TICAD9～ビジネス交流が加速しているアフリカ](#)

UNIDO 東京事務所

ケニアで現地研修を実施／TICAD9に向けた日本の若者によるアフリカスタートアップ起業支援
(2025年4月)



国際連合工業開発機関
東京事務所/技術移転と起業事務所
アフリカ・起業者・サイトマップ English

UNIDO UNITED NATIONS INDUSTRIAL DEVELOPMENT ORGANIZATION ITPO

UNIDOとは 事業内容 勧組状況 イベント予定 広報資料 Q

ケニアで現地研修を実施／TICAD 9に向けた日本の若者によるアフリカ・スタートアップ起業支援

ケニアで現地研修を実施／TICAD 9に向けた日本の若者によるアフリカ・スタートアップ起業支援

画像引用元: [ケニアで現地研修を実施／TICAD 9に向けた日本の若者によるアフリカ・スタートアップ起業支援](#)

INTERNSHIP PROGRAM



アフリカの社会課題解決に一緒に取り組むインターン生の受け入れ

アクセラアフリカではケニアを拠点にアフリカの社会課題解決に取り組むインターンシップの受け入れを積極的に行ってています。今年も日系企業や現地スタートアップと連携し、市場調査や資料作成、研修プログラムの運営、コミュニティ事業などプロジェクトの一員として携わっていただきました。

長期インターンに加え、短期で挑戦できるチャレンジ枠も設けており、2025年は6名のインターン生が各プロジェクトで活躍いただきました。また卒業生コミュニティも徐々に広がり、今年も時期の異なるインターン生同士が交流する懇親会も開催しました。

① 事業開発コンサル事業

PLPでは、資金調達サポートを中心に現地データの収集・分析から提案、資料作成、プロモーション、イベント実施までを一貫して担っていただきました。その他にも銀行口座開設の現地サポート、現地調査など幅広い業務をサポートいただきました。

② 研修プログラム・コミュニティ事業

UNIDO×東京大学および慶應EMBA研修プログラムの現地研修では、全日程における同行やケニア現地の紹介をしていただきました。また、JENGA HOUSEではコラボイベントの企画・運営やケニア人の海外派遣を支援する団体との連携促進にも取り組んでいただきました。

③ 卒業インターン生のコメント - 奥村さん

インターンを通じて、ケニアの「リアル」を様々な角度から知ることが出来ました。最先端技術に挑む学生の熱量や厳しい環境でも懸命に働く人々の姿に触れ、現地でしか得られない一次情報の重要性を実感した半年間でした。もちろん仕事の難しさや自身の未熟さに悔しさを感じる場面もありましたが、それ以上に多くの出会いや発見を通じて成長できたと感じています。関わってくださった皆さんに心より感謝しています。



PUBLISHED ARTICLES

① 国別プロフィール



PUBLISHED ARTICLES

② アフリカビジネス環境解説



③ アフリカ現地企業研究



④ インターン記



MEET AXCEL TEAM



横山 裕司

代表取締役



八田 樹枝瑠

事業共創コンサルタント
(アソシエイト)



Miriam Lelei

HRマネージャー



高塚 こころ

エグゼクティブラシスタント
／研修プログラムリーダー



Lawrence Irungu

事業共創コンサルタント
(アソシエイト)



Wilstan Onditi

事業共創コンサルタント
(ジュニア)



Sinaida

JENGA HOUSE
House Management



飯田 りさ

Africa Quest 理事
／16代目インターン



和田 健士郎

20代目インターン
／JENGA HOUSE管理人

Thank You

アフリカ市場への進出検討、現地調査、事業共創に関するご相談などがございましたら、ぜひお気軽にお問い合わせください。

構想段階での壁打ちや情報収集から、現地での仮説検証、パートナー探索、実行・運営フェーズまで、状況やフェーズに応じた伴走型の支援を行っています。「まだ具体的な事業計画が固まっていない」「現地のリアルな情報を知りたい」といった段階からのご相談も歓迎しております。

私たちは、現場に立ち、共に悩み、共に動くパートナーとして、皆さまの挑戦を最後まで支えてまいります。



<https://www.axcelafrica.com/>



info@axcelafrica.com



[@AxcelAfrica](#)



<https://www.linkedin.com/company/axcelafrica/>



アフリカビジネス最前線
by アクセルアフリカ



<https://www.facebook.com/axcelafrica/>



[代表ブログ \(note\)](#)

